

## 5. 地域医療教育研究推進プログラム

本プログラムでは、全国8地区において、国公立大学を拠点とした地区・地域内の大学及び医療関連機関との有機的な連携によって、社会のニーズに応える高度な地域医療を担うことができる高度先導的薬剤師として、地域の福祉医療・保健衛生を主導し、大学・地域連携による先進的地域医療を担うことができる薬学研究者や薬剤師の養成を目指す。さらに、多職種連携によるチーム医療・地域医療教育を担う実務実習指導薬剤師や臨床系大学教員の養成を目指す。

参画大学においては、すでに第2期中期目標期間中に実施した「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業ならびに、**第3期中期目標期間中から実施している「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究の共同開発」事業において**、6年制学部及び4年制大学院博士課程の教育研究プログラムの充実を図っており、その発展的な継続、さらにはこれらを基盤とする新たなプログラムの開発と実施が期待される。

6年制薬学部及び大学院博士課程の教育研究における「地域医療教育研究推進プログラム」については、これまで国公立19大学が全国8地区（北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中・四国、九州・山口）において、それぞれ地域の病院や薬局との連携のもとに主導してきた薬学実務実習の実施体制や地域医療発展へ貢献してきた実績を基盤とし、また本事業の「地域薬学人材養成教育拠点形成プログラム」において構築した薬学人材養成教育拠点を基軸として実施する。本プログラムとしては、地域の医療機関や病院、薬局、他大学との連携による、高度先導的薬剤師養成において重要な優れた臨床能力の養成に必要な地域医療教育を主導できる指導薬剤師研修プログラムや、自大学卒業生・修了生をはじめ社会で活躍する薬学人材のキャリアアップや専門性の高度化を可能とするアドバンストリカレント・アドバンスト生涯教育プログラム、学部生や大学院生の地域医療への関心を高め実践的な臨床能力の向上を図る地域医療アドバンストインターンシッププログラムの実施が挙げられる。

### 【2023年（令和5年）度】

#### 1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<金沢大学>

##### ○がん高度医療人材養成事業

- ・学生・大学院生および薬剤師を対象としてがん薬物療法における最新知識および臨床現場からのエビデンス発信スキルの修得を目的に研修会等を実施する

##### ○金沢大学×野々市市おくすりプロジェクト

- ・野々市市との連携した事業で、1) 地域でサロンを開催し、ポリファーマシーの解消に向けた住民への知識啓蒙活動を行う、2) KDBを用いて野々市市におけるポリ

ファーマシーの動向と関連要因を解析する。) 学部生・大学院生を対象とした。

<岡山大学>

○ 地域密着型OTCカウンセリング研修 (\*)

・2023年8月24-25日、参加者 学部生8名、帯同教員2名。今年度は、1年生2名、2年生1名と低学年の学生の参加もあった。保険薬局での薬局実務実習では、十分な体験学修ができないOTC医薬品の基礎知識から来局者の症状等に合わせたOTC医薬品の選定までについて、講義、グループワーク、ロールプレイ等で理解を深めてもらう研修を行った。さらに今年度は、薬が苦手な患者にお勧めの服薬グッズや、介護用品の代表として、大人用おむつや尿漏れパッドなどの体験も行った。

○ 自衛隊呉病院訪問見学研修 (\*)

・学部生を対象。2024年3月15日、参加者 学部生2名、帯同教員2名。本学の薬学生が病院実務実習を行う特定機能病院や病院薬剤師として就職先の多くを占める一般の中小病院と異なり、自衛隊員とその家族の診療と治療に特化した病院での研修希望に応じたプログラム。自衛隊員は、長期航海訓練や集団生活が多いことに起因する糖尿病や感染症、骨折・怪我などをしやすい職業であることから、それら疾患特性に応じた医薬品や回復リハビリテーション設備が充実していることを学んだ。またCTやMRIなど一般病院にある設備に加えて、潜水病や突発性難聴などの治療に有用な高圧酸素治療室など特殊な設備がある一方で、病棟にはほとんど入院患者がおらず、それでも有事に備えて、ベッドは確保しておく必要があることなど、多くの点が異なっていた。

○ 地域密着型漢方専門薬局短期インターンシップ (\*)

・学部生を対象。2024年3月17-20日、参加者 学部生4名、帯同教員1名。本研修では、江戸時代から350年以上に亘り地域住民に信頼され、住民の健康維持に貢献してきた漢方専門薬局が、日々どのように様々な来客者と面談し、最適な漢方処方を考えて調剤しているかを学ぶ機会を与えた。座学では、「1つの漢方処方がなぜ複数の症状に有効かの仕組みや、各流派の長所・短所、漢方処方を考える際に最も重視している問診で薬剤師が「ヒトを観る」ことの重要性を学べ、演習では、黄芩、大棗、センブリなどの生薬そのものの実食体験や、薬研を使った生薬の粉碎体験、エキス剤・煎じ薬・生薬末熱湯浸漬液の3種類の煎液の調製・飲み比べを行って各製剤の製法・特徴について知識と経験が結びつき深く理解した。

<広島大学>

○ 遺伝子検査セミナーの開催

・学部生、大学院生を対象。個人の遺伝子検査が簡易に行われるようになり、間違った認識を持つ一般市民が増えるなど問題が発生している。そこで、薬局薬剤師が関与することによってこの問題を解決することを目指し、薬局薬剤師と大学の共同での遺伝子検査セミナーを開催し、一般市民への啓発活動を行った。2021年度も漢方薬局も加え、東洋医学的観点からの生活習慣指導も行った。

※令和6年度実施予定

## <九州大学>

### ○DXを活用した教育プログラム

- ・学部生、大学院生を対象。電子処方箋、オンライン服薬指導など昨今の世の中の急速な変化に対応するため、関連する知識に関する講義とオンライン服薬指導システム（テルモ社製ハートライン）を用いた演習を実施した。

## <熊本大学>

### ○熊本県医療人育成総合会議

- ・学部生、大学院生を対象。熊本大学医学部・薬学部、熊本総合医療リハビリテーション学院、九州中央リハビリテーション学院、熊本県健康福祉部、様々な医療機関の関係者が実行委員となり、熊本のより良い医療・福祉の実現とその人材育成に関する講演会を開催している。本年度は、本学大学院薬学教育部の大学院生（博士課程1年）1名および薬学部薬学科学生（6年生）1名が『医療機関における働き方改革と医療人育成』に関するパネルディスカッションを行った。また、本学薬学部生・大学院生も多数参加し、議論に加わった。

### ○ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業

- ・学部生、大学院生を対象。熊本大学薬学部薬学科における薬学教育デジタルトランスフォーメーション（DX）を加速し、ウィズコロナ～アフターコロナ時代に対応できる先進的な薬剤師を育成する目的で、DXファーマ養成プログラムの強化を図り、治療薬やワクチンによる副作用の評価に必要な知識・技能を効率的に学習する講義・実習、デジタル医療機器、ウェアラブル端末を用いたフィジカルアセスメントの重要性について学習する講義・実習、オンライン服薬指導・疑義照会に必要な知識・技能について学習する講義ロールプレイ実習等を行った。

## <長崎大学>

### ○名医歯薬高学年次共修授業

- ・学部生を対象。本学医学部医学科4年生、医学部保健学科4年生、歯学部4年生、薬学部薬学科4年生対象の共修授業で、10名程度/グループで、退院時カンファレンスを想定した症例検討をおこなった。2023年10月30日と11月6日にそれぞれ1コマ、合計2コマ行った。

### ○オンライン服薬指導実習

- ・学部生を対象。ニプロのオンライン服薬指導システム「ニプロハートライン TM」を取り入れたオンライン服薬指導実習を実施し、遠隔医療に対応できる人材の育成に着手した。対面による服薬指導実習を行った4年生対象に、オンライン服薬指導実習を2日間(2023年11月27日、28日)かけて実施した。

### ○A-fib研修プログラム

- ・学部生を対象。長崎大学薬学部が、米国ニューメキシコ大学薬学部及び長崎県薬剤師会と協力して開発している地域医療教育プログラムであり、心房細動スクリーニングを基盤として、疾病予防に貢献できる高資質な薬剤師を養成することを目的にしている。長崎大学病院循環器内科、長崎大学脳卒中中心臓病等総合支援センター、

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療協働センター、行政などの多職種の協力を得て、長崎市内や上五島地区で心房細動スクリーニングイベントをおこなった。イベントでは学生は簡易心電図測定、心房細動の早期発見と予防の啓発を行なった。2023年4月30日、10月1日、2024年2月11日開催。トレーニングを受けた学生10名、教員6名。

#### ○在宅医療・福祉コンソーシアム長崎

・学部生を対象。長崎県内の国公立3大学（長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学）が、さらに医学・歯学等の教育者を加えた協働教育体制の充実を図り、県内の4自治体・12職能団体・2法人と連携し、一体となって、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成の拠点作りを目指している事業。2023年度も長崎県内大学で単位互換が可能な授業科目として、薬学部から在宅医療関連の3つの科目を提供した。

#### ○早期体験学習

・学部生を対象。本学習は医療現場での薬剤師の役割を理解し、キャリアについて考えることが狙いである。長崎市内の調剤薬局・病院を訪問し、薬剤師業務を見学、話を聞いた。見学後は大学内にて体験報告会を行い、学びを共有した。学部1年生が参加。

#### <名古屋市立大学>

#### ○令和5年度文部科学省（大学改革推進事業）「地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援採択事業」東海地区連携で行う薬剤師不足地域でのアドバンスト実習とそれを活用した薬学生・薬剤師PBL学習プログラムの構築）【連携】

・学部生を対象。薬剤師の地域偏在を解消するための大学の教育的な貢献を目標に採択された事業であり、高齢化や人口減少が進み医療人材が不足している地域でのアドバンスト実習を正規の実務実習を修了した薬学生に体験させ、その地域で滞在してその地域の医療の現状や課題、さらには魅力を発見し、それを「映像コンテンツ」のプロダクトとして制作するという課題解決型学習のプログラム。プログラムで制作した映像コンテンツを活用して、学生主導による授業、薬剤師への研修を行い、アドバンスト実習の成果を広く薬学生ならびに薬剤師に公表して薬剤師偏在問題を考えてもらうことも、本プログラムの重要な目標とした。

今年度は、東海4県の連携大学が各1か所の実習を担当し、4地区で4回のアドバンスト実習を行った。各地区には各大学からの希望者5名が参加した。

#### 2023年度 アドバンスト実習実施日

岐阜県 飛騨・高山地区 2023年11月13日（月）～17日（金）（岐阜薬科大学担当）  
静岡県 川根本町地域 2023年12月18日（月）～22日（金）（静岡県立大学担当）  
三重県 尾鷲地域 2024年1月22日（月）～26日（金）（鈴鹿医療科学大学担当）  
沖縄県 沖縄北部地域 2024年2月26日（月）～3月1日（金）

（名古屋市立大学担当）成果レポートや映像コンテンツは東海薬学教育連携コンソーシアムHPにまとめ、公表するとともに、各大学で利用できるようにした。映像

コンテンツを活用した薬学部PBL授業は、名古屋市立大学で2年生、3年生、4年生に向け

計3回、岐阜薬科大学では3年生、4年生に向け計2回、静岡県立大学、鈴鹿医療科学大学では4年生に向けた授業を各1回、今年度は実施した。映像コンテンツの薬剤師研修への活用は、岐阜薬科大学、静岡県立大学、鈴鹿医療科学大学で各1回実施された。

#### <静岡県立大学>

##### ○ 地域防災演習

- ・学部生を対象。静岡地震防災センター及び静岡県立大学にて、防災演習を必修科目として行った。ふじのくに防災マイスター養成講座を受講し、ふじのくに防災マイスターを取得することができる。

##### ○ 防災講習会

- ・学部生を対象。地域防災演習を受講しふじのくに防災マイスターの資格のある学生が高校生を対象に、防災に関する講演や避難所のシミュレーションゲームなどを行った。

##### ○ 地域医療アドバンスト実習（川根本町地区）

- ・学部生を対象。静岡県川根本町地区において、本学学生2名（5年生、他大学学生3名）により5日間のアドバンスト実習を実施した。実習では地域の薬局業務を体験した他、診療所、町役場、介護施設、高校を訪問した。

##### ○ 地域医療アドバンスト実習

- ・学部生を対象。本学学生（5年生）を沖縄北部地域および三重県尾鷲地域で行われた、地域医療に関するアドバンスト実習に参加した。

##### ○ 薬学部4年生に対する地域医療講義

- ・本学学生（4年生）を対象にした地域医療に関する講義を行った。川根本町地区で実習を行った学生から、地域医療の状況や学んだことが報告された。さらに川根本町のまつおか薬局の松岡先生より地域の状況や学生へのメッセージが語られた。。

#### <和歌山県立医科大学>

##### ○ オンライン市民公開講座「最新の医学・医療カンファランス」

- ・教職員、学生、一般市民を対象としたオンライン公開講座「最新の医学・医療カンファランス」を医学部、保健看護学部と合同で実施しており、2023年度は4名の薬学部教授が講演を行った。

##### ○ 医学部薬学部合同勉強会

- ・教員及び学生を対象として、年2回の医学部と薬学部の合同の勉強会を実施している。県立大学として地域医療に貢献することが使命であり、勉強会では医学部および薬学部における関連する研究成果の紹介・情報の共有化を行っている。学生のキャリア形成の推進にも資するものであり、「a. 高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム」にも位置付けられる。